



国際センター通信 (No.14)

土木学会100周年記念国際会議「社会インフラの豊かな生活への貢献」

公益社団法人 土木学会は、2014年11月に創立100周年を迎えます。この100年の間に、我が国をとりまく環境は激変し、土木工学に求められる要請も大きく変わりました。人口減少や少子高齢化、グローバル化、経済問題、インフラの老朽化、自然災害の多発、資源・エネルギー問題、環境問題など、多くの課題が存在する中で、土木工学には長期的かつ大局的な展望を保ちながらも、時代の変化を敏感に捉え、さまざまな課題や社会からの要請に応え、公益の増進を図るための不断の努力を続けることが求められています。この100周年を素晴らしい節目として、これまでの我が国の土木の歩みや諸外国との技術交流を振り返るとともに、今後、土木工学が果たすべき役割について考えるため、「社会インフラの豊かな生活への貢献」をテーマとする100周年記念国際会議を開催いたします。



100周年記念国際部会長
木村 亮

国際会議では、11月19日と20日にアジア各国代表による円卓会議 (RTM-Asian Board Meeting)、20日に「社会インフラの豊かな生活への貢献」と題したパネルディスカッションを執り行う予定です。アジア各国代表による円卓会議では、防災のための土木工学の取り組みについて議論が行われます。パネルディスカッションでは、諸外国の主要学協会代表者が登壇して、各国のインフラの整備・管理の現状や気候変動への対応状況、自然災害に強いインフラの実現、諸問題解決のためのインフラの方策について講演を行うとともに、各国のこれまでの取り組みや連携および今後の計画について情報交換を行います。すなわち、これまでの100年間を踏まえ、工学先進国より日本が享受した技術協力に敬意を表すると共に、日本としての今後のインフラビジョンを提示し、各国と意見交換を行い、今後100年間にわたってのあるべきインフラのすがたを議論します。11月20日のパネルディスカッションおよびアジア各国代表による円卓会議 (最終セッション) は、東京駅至近のJPタワーホール&カンファレンスにて、入場無料で開催 (18時から入場無料のレセプションも実施) いたします。皆様、奮ってご参加ください。

土木学会創立100周年実行委員会国際部会の実施事業を表-1に纏めました。1、2、4、6、7の事業は、土木学会の支部や各委員会で100周年記念事業として事業を公募し、採択された公募事業となっています。来年の大阪大学で開催される「サマーシンポジウム」や「アジア若手技術者ワークショップ」も、有意義な活動となるよう事業計画を立てており、皆様の積極的な参加をお待ちしております。

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/49>

第 143 回米国土木学会年次大会 (ASCE143rd Annual Civil Engineering Conference)参加報告

2013年10月10日から12日、第143回米国土木学会年次大会(ASCE 143rd Annual Civil Engineering Conference 2013)がノースキャロライナ州シャーロット市で開催されました。土木学会からは橋本鋼太郎会長、大西博文専務理事をはじめ7名を派遣しました。大会参加に加え、来年開催されるASCEの144回パナマ100周年記念大会及びJSCEの100周年記念行事に向けた協力について打合せをし、また社会インフラ維持管理・更新特別委員会で作成を検討しているレポートカードについて米国のレポートカードの担当者との打合せをしました。さらにシャーロット市関係者と土木技術者の役割等について打合せを行いました。



土木学会 国際センター
米国 Gr.リーダー 土橋 浩



開会式の様子

10日の開会式では、ディロレット (Gregory Diloreto) 会長から1年間の活動、取り組みについて報告されました。特に3月にレポートカードを公表後、6ヶ月間で11,000のメディアで取り上げられたことが紹介されました。また、土木技術者は”Global Leader”として、さらなる生活の質の向上を目指す必要があることが強調されました。続く基調講演では、CNN インターナショナルのキャスターで、ジャーナリストのアリ・ベルシ (Ali Velshi) 氏からASCEのレポートカードは、単にインフラの維持管理の状態を評価しているだけではなく、コストの効率化にもつながると評価していました。また、インフラに関する新たな取り組みに国民が関心を示さないことが課題であると講演されました。

会議は一般講演セッションに加え、公開討論会、Business Meeting が行われました。レポートカードが公表されたため、ナショナルレポートカードに加え、州のレポートカードに関わるセッションが多く開催されていました。

大会2日目の11日には、レポートカードの作成を担当していたブライアン (Brian T. Pallasch) 氏、エミリー (Emily Fishkin) 氏とレポートカード作成にあたって、評価委員会の設置、データ収集、評価方法、費用などの具体的な作業手順やその内容について打合せしました。今後、土木学会でレポートカードを作成するにあたって、非常に有益な情報を得ることができた。



レポートカードに関する打合せの様子

その後、Luncheon Meeting を開催し、JSCE100周年記念事業およびASCE144回パナマ100周年記念大会に向けた両学会の相互の交流について約束しました。JSCEの100周年記念事業では2014年11月20日に開催する国際シンポジウムの講演をお願いしました。また、21日の記念式典への出席をお願いし、橋本会長から招待状を渡しました。一方、ASCEのパナマ100周年記念大会にあたり、第23代土木学会長青山士氏がパナマ運河の建設に関わった日本とパナマ運河の歴史的な関係を確認し、JSCEとして記念講演を提案しました。



**ディロレット会長夫妻と橋本会長及び派遣団
(10月10日インターナショナルディナー)**

今回のASCEの年次大会は、パナマ運河100周年を記念して、2014年10月7日から11日にパナマ共和国で開催されます。閉会式でフレッド・バージャー (Fred Berger) 氏から、パナマ運河の拡張工事についてビデオで紹介があり、パナマでの再会を誓い、次期大会への引継が行われ、今年度の大会は閉会しました。

今後、来年開催される両学会の記念事業の成功に向けて、会員の積極的な参画が求められます。会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

2013年 韓国土木学会(KSCE)年次大会参加報告

今年の韓国土木学会年次大会 (以下 KSCE) は、10月23日～25日の三日間、リゾート地として知られる江原道 High 1 Resort にて開催されました。土木学会 (以下 JSCE) からは橋本会長、山川国際センター次長、韓国グループリーダー江上氏、佐々木寧埼玉大学名誉教授、波津久氏、国際センター職員橋の6名で参加しました。



土木学会 国際センター
韓国 Gr.リーダー
江上 和也



IPO 堰の全景

初日は、私たちを含めた海外ゲストはKSCEのシャトルバスで四大江河川事業のうちの漢江支流に整備された「IPO 堰」のテクニカルツアーに参加しました。K-WATERの管理事務所で大江河川事業やIPO堰の整備についての説明を受け、周辺施設の見学をしました。堰頭のデザインは、鳥のタマゴを模したもので、水門操作の機械室が納められています。また、各地で整備されている堰のデザインは、地元の特徴を表したものとして整備されており、IPO堰の堰頭も市民の憩いの場を象徴しているようでした。

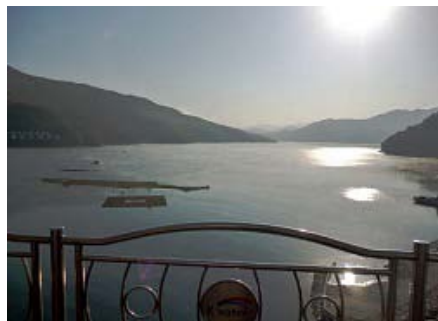
二日目は大会開会式に参加した後、KSCEのCivil Engineering Leader's Networkに参加しました。その後、JSCE-KSCEの代表が集まった二国間会議では、来年のJSCE100周年記念国際会議や式典への協力、今後の両国学会の関係強化等について活発なディスカッションが行われました。KSCEのSim会長は100周年記念行事への参加を快諾してくれました。

国際円卓会議では、「Environmental Design Aquatic Plants in Urban Streams」のテーマのもと、埼玉大学名誉教授の佐々木先生を含め4名が講演を行いました。佐々木先生の講演の中で、東日本大震災の津波被害の説明がありましたが、そのときはリラックスしていた参加者の表情も少し変わったように見えました。講演の後は参加者から積極的な質問が出され、盛会のうちに閉会しました。



RTMにて講演中の佐々木先生

最終日は、韓国分会の朴元分会長と李会長とともに早朝 6 時に宿泊先を出発し、40 年前に日本の技術協力のもとに完成した昭陽江ダムの見学に向かいました。このダムは東アジア最大級のロックフィルダムで、治水の他、ソウル首都圏への都市用水の供給や水力発電も行う多目的ダムです。また、K-WATER の説明によると、湖岸のサイクリングや散策、ダム湖のクルーズ等が行われており、年間 100 万人を超える観光客が訪れる有名スポットともなっています。



昭陽江ダム湖を望む

その後、最後の目的地である韓国道路公社春川支社を訪問し、ソウル-春川の PPP による高速道路整備や現在建設中の韓国最大の 10 km のトンネル整備の説明を受けました。ここではスピード違反の取締システムや交通量が計画に満たなかった場合の補償制度、民間投資における維持管理等の課題等の説明を受けました。午前中のうちに 250 km ほどを移動する強行軍でしたが、大変充実した時間を過ごすことができました。最後にソウル市内で日本大使館のご協力のもとに在韓の日本人技術者との昼食による懇談会を行い、日韓の技術交流等の課題について活発な意見交換が行われました。

大会期間中、日本には二つの台風が接近し出発や帰国が危ぶまれましたが、無事に全日程を終えることができました。また、三日間にわたり私たちのお世話をしてくださいました韓国分会長の李東郁先生や朴慶夫元分会長にこの場を借りてお礼申し上げます。

2013 年土木学会全国大会 国際セッション 優秀講演者

| 氏名 | 所属大学 | 論文タイトル |
|-------------|--------|---|
| ゲエン ホン ソン | 名古屋大学 | THE POSSIBILITY OF DELAYED SETTLEMENT OF ULTRA-SOFT GROUND CONTAINING PEAT DUE TO EMBANKMENT LOADING COMBINED WITH VACUUM CONSOLIDATION |
| 柯 琳 | 東京工業大学 | DRAINED RESPONSE OF INTERNALLY ERODED COHESIONLESS SOIL |
| 朴 鎮垠 | 名古屋大学 | LOW CYCLE FATIGUE BEHAVIOR OF CONCRETE FILLED STEEL PIERS |
| ホムマジャン ソーラシ | 日本大学 | Travel Demand Forecasting for Planning BRT by Using Stated Preference Approach -Case Study in Vientiane, Laos- |
| 菊池 浩紀 | 日本大学 | Possibility to Realize Low Carbon City in Middle-sized City of Asia -Case study in Khon Kaen City, Thailand- |
| 高野 芳行 | 東京大学 | Shear performance of Pre-damaged PVA-Aggregate Mixed ECC Beam |
| チャオ ディ | 名古屋大学 | Analysis of Effects of Mechanical Properties of Concrete on Corrosion-induced Cracking |

国際センターの活動（土木学会会長 橋本 鋼太郎）

◆2013年ASCE、KSCE年次大会に参加して

10月9日から12日まで、米国ノースカロライナ州シャーロット市で開催された米国土木学会（ASCE）の年次総会に参加しました。

総会にあわせて開催されたASCE-JSCE会議には、Diloreto会長、Over次期会長、Herrmann前会長、Barger年次総会委員長らが列席し、来年11月のJSCE100周年記念行事への参加を依頼しました。さらに、パナマ運河開通100周年の記念大会となる来年のASCE年次総会にて、JSCEによる青山士に関する基調講演を提案し快諾されました。

今回のASCE総会では、シャーロット市役所にて市の土木技術者の役割に関する意見交換や、ASCEスタッフとのレポートカード作成に関する打ち合わせを行うことができ、非常に有意義な内容となりました。我が国の社会インフラの現状を国民に理解してもらうためには、学会として公正・中立な現状分析・評価が必要で、日本版レポートカードを作成し公開することが重要です。

そして、10月23日から25日まで、韓国・江原道のHigh1リゾートで開催された韓国土木学会（KSCE）の年次総会に参加しました。KSCE-JSCEの会議では、100周年記念行事への参加を快諾いただき、さらに今後の二学会間の協同について意見交換を行いました。

JSCE韓国分会の李東郁会長からは、9月の土木学会全国大会・国際セッションにおいて、韓国公共施設安全技術公社Kyoung-Soo Kim理事長から説明のあった「施設物の安全管理に関する特別法令集(2011. 12)」の日本語訳をいただきました。膨大な資料を短時間で翻訳していただき、感謝に堪えません。是非とも我が国の維持管理・更新の課題解決の参考させて頂きたいと思います。

最終日には、昭陽江ダムの視察と韓国高速道路公社春川支社を訪問し、両施設とも極めて良好に管理・運営されているとの印象を受けました。

イベント情報

- ・2013/12/23：日韓技術者交流セミナー「道路橋の維持管理」会場：韓国、ソウル

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのwebsite（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 35 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- ◆ 英国分会齊藤様の「ダブルデッキ型複合トラス橋について」のプレゼンが表彰を受けました。
http://www.iabsekempfod.com/young_engineers.html
- ◆ 日越技術交流推進センター開設（XAY DUNG 新聞社）
<http://vnctimes.com.vn/portal/news/2013/11/7699/>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students
- ・英語版（日本の大学等への留学経験をお持ちの方）：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

Yの独り言

この秋、会長やIACメンバーは、JSCEの友人である協定学会の年次大会に参加するため海外を飛び回っています。つい2週間前には、会長は英国土木学会(ICE)の会長と会うために13時間かけてロンドンに出かけました。このIT時代のおかげで私たちは毎日、携帯電話、ツイッター、スマートフォンで会話をしています。携帯電話、スマートフォン、iPadは私たちの輝かしい成果であり、使い手よりずっと賢く出ています。では、なぜ時間をかけて友人に会い出かけ、直接顔を合わせて話をしようとするのでしょうか？ 同じ時間と場所を共有すること、お互いの眼を見て声を聞くこと、そこにはハイテク機器で話す以上のものがあるようです。まあ、“百聞は一見にしかず”、“一期一会ですね。

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

